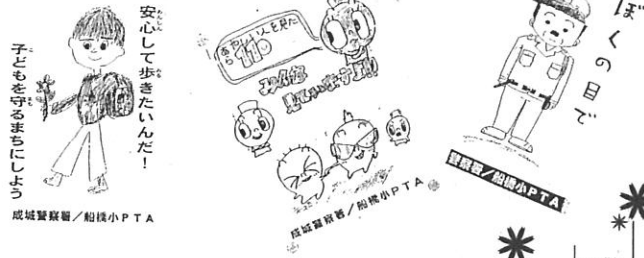


第3幕 子どもを守るPTAの取り組み

船橋地域の小学校では、学校とPTAがそれぞれ子どもを守ろうと様々な取り組みをしています。

特にPTAではどの学校でも、安全マップ作り、安全パトロール、校外班活動などきめ細かい活動がなされています。また、中学校でも、地域・警察などと連携して生徒の安全に努めています。

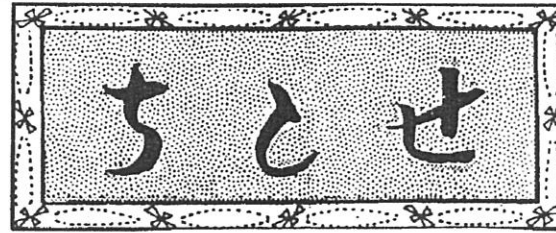
中でも船橋小学校PTAでは、子ども・家庭地域の防犯意識を高め、不審者が入りにくいまちにしていける為、独自の防犯ポスターを作っています。校内児童にポスターデザインの応募を呼びかけ、児童・保護者の投票で、3点のポスターが選ばれました。現在3点のポスターは130枚印刷され、船橋会などの協力で家庭・地域に貼られています。“安心して歩きたいんだ”、というキャッチコピーがついたポスターなど、子ども達の切ない気持ちが伝わってきます。子どもや高齢者が本当に安心して生活できるまちに皆でしていきたいですね。



★子どもを守るのには親や身近な人々です。★

★残された大きな課題★

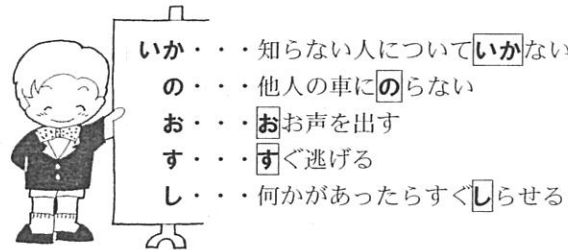
一幕から三幕まで述べてきたことに加え、町会・自治会の活動や『わんわんパトロール』などのまちぐるみの活動もはじまっています。地域組織とそこに住む人々の、ゆるやかな型にはめない連携が長続きの秘訣ではないでしょうか。四幕裏面は、薬物使用が低年齢化している問題を取り上げました。今ひとつ見逃してはならない重大なことに、市販の飲料水、サプリメントの乱用があります。



第2幕 子どもの安全を親子で考える

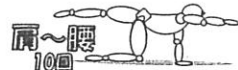
さまざまな危険を乗り越えるために、まずは、『自分の安全は自分で守る力を身につけることが大切だ』と考えますが、そうは言っても子どもだけでできることではありません。そこで地域安全マップを見るだけでなく、実際に親子で近所を歩いて、「危険な場所はどこか、なぜ危険なのか?」「誰かに声をかけられたときや、誘われたときどうするのか?」万一の時の逃げ場所や対策を一緒に話し合いました。一度確認したので安心だとは思わず、定期的と同じ道を歩いて、近所同士で元気にあいさつをするを常に心掛けています。

また、防犯ブザーも単なるアクセサリではなく、使いやすい場所につけてあるか、鳴らす練習をさせたり、毎週一度は、電池が切れていないか確認をしています。最後に、警視庁が考案した防犯の標語「いかのおすし」を紹介します。



腰痛予防ストレッチ体操

健康運動指導士 長嶺敦司 先生



身近なまちづくり推進協議会主催 【家庭でできる健康講座】より 2/12, 2/19, 2/26



まちの目が 安全・安心を守っています



船橋地区町会・自治会連合会
船橋地区身近なまちづくり推進協議会
青少年船橋地区委員会/成城警察署/成城防犯協会



地域の安全劇場を つくるのはだけ

世田谷区では、地域安全のために「スクラム防犯」を基本とした区民の防犯意識の共有を呼びかけています。安全の問題は多義にわたっています。が、今回は「子どもの安全」についてとりあげます。大きなタイトルを掲げ、安全劇場一幕から四幕まで創りました。

同じ町に住む皆様と共に考え、そして持続するように心がけたいものです。



第1幕 一人の力は小さくとも

ニューヨークの犯罪減少の秘密を犯罪学者のジョージ・ケリング博士の提唱によりますと、地域社会が荒れないように落書きや掲示板へのいたずらやゴミの出し方等、通常軽い犯罪とされる行為を見逃さないことが、犯罪の多発防止になるそうです。☆一人一人の気配りで町を明るくしましょう。☆道端にポイポイ物を捨てないようにしましょう。☆幼い子どもたちの登下校時も、それとなく見守りましょう。☆体が不自由な方々への思いやりを忘れないように。地域の方々の気持ちで住み心地よいまちにしましょう。

人をつなぐ商店街 — 千歳船橋商店街振興組合 —



年末・年始の間“ちとふな商店街”のフラッグをご覧になりましたか？船橋小学校児童・保護者が描いたフラッグが明るく映えていました。

商店街は、昨年6月に開催された「船橋会主催・船橋あおばまつり」にビンゴゲームの景品を提供し、12月の「商店街主催・ちとふなまつり」には船橋会が豚汁をふるまい、交流が深まっています。その「ちとふなまつり」のバザー収益金163,000円が「青少年船橋地区委員会主催子どもぶんか村」にこの度寄付されました。この地域の子ども達が健やかに成長していくことに役立てて欲しい、との商店街の方々の思いからでした。“ちとふな商店街”は、まちを、人々を、繋ぐ場となっています。益々の発展を皆で願っています。



《青少年船橋地区委員会ミニミニニュース》

小中学生が運営するきっさてん「ひまわり」が、船橋ふれあいまつりの売上から1万円をスマトラ島沖地震募金として、国際協力NGOセンターに寄付しました。



お知らせ

- ★3月18日(土)地域研修会 希望丘小学校 「ごみを減らす暮らし方」 13:30~15:30
 - ★5月14日(日)古着・古布回収 10:00~12:00
 - ★5月14日(日)ふなばし ノミの市 (フリーマーケット) 出店者募集 10:00~14:00
- 詳しくは 事務局 3482-0341 へ
船橋地区ごみ減量・リサイクル推進委員会
ふれあい船橋リサイクルの会

歳末たすけあい・支えあい募金のお礼

皆様の温かな善意のご協力ありがとうございました。募金額 1,699,580円

今年も各種募金等にご協力お願いいたします

日赤社資募集	5月
社会福祉協議会会員募金・会費納入	7・8月
赤い羽根共同募金	10月
歳末たすけあい・地域支えあい募金	12月

第4幕 「狙われる子どもたち」

上田浩憲

近年、子どもの薬物乱用が深刻化しています。うちの子に限って！と他人事では済まされない程、世田谷も侵食されています。先輩や親しい友人から「一度だけなら大丈夫」「やめようと思えばいつでもやめられる」「ダイエットに効く」云々、言葉で・携帯で・インターネットでわが街にも悪の触手が伸びてきつつあるのです。

薬物事犯は、覚せい剤・毒物及び劇物・大麻・向精神薬など、各取締り法違反に分類され、中学生は133%、高校生は123%といずれも増加、覚せい剤乱用少年に占める女子の割合も、増加傾向にあるのを、皆さんご存知ですか？ <平成17上半期警察庁調査>

脱法ドラッグも薬理作用が規制薬物に近いものもあり、乱用する事は極めて危険だという事を正しく認識させ、好奇心や興味本位で服用させない様身近な大人、そして家庭で、繰り返し教えなければなりません。

以前には、成城警察署管内にも薬物違反、摘発事例がありました。警察署、学校それに地域団体との連携で、蔓延を防いだ過去があります。こうした薬物は、依存性が強く、一度手を出したらやめられず、人生をボロボロにする悲惨な末期症状が待っている事実を、あなた自身が伝えましょう。

上田浩憲氏 プロフィール
船橋在住 宝性寺住職
保護司・成城警察署少年補導員
中学2年生を対象に
薬物の講演活動中



ヤング・テレホンコーナー
【電話による少年相談】
☎03-3580-4970

麻薬は本当に使ってはいけないもの、とが分かったら、もう一度人に誘われても断れる人になりたい。



話を聞いた生徒の感想

自分でも抑えられない感情とかがあるから薬に頼る。子どもはみんな大人にもっと見してほしい。



1回位はいいや、その1回が、自分の5年10年後を真っ黒にしてしまっ。



読者の皆様へ



第74号の記事【ゴミ問題を考える】に「意見が寄せられました。」
「ミニミニ紙は全戸配布していますが、回覧式配布でどなたも取らず、資源の無駄ではないですか？また買物時にも袋を持参する人が殆んど見られず、未来の日本の為にも考えたいものです。」という内容でした。また一方で「身近な問題を取り上げているのでじっくり読みたい。」
「知り合いが編集委員なので興味深い。」という事で、全戸配布は続けてほしいとの意見もあります。船橋葎根会ではごみ減量リサイクル推進委員会活動を載せた記事がきっかけになり、「ミニ処分場(ゴミの終着駅)見学ツアー」が実現されました。
編集委員一同、様々なご意見・反響を喜ぶと共に、出来るだけ多くの方々に読んで頂くよう魅力ある紙面を目指し、益々頑張らなくてはと思いを新たにしています。
今号は【地域の安全劇場をつくるのはだれ！】と題しての特集です。紙面を読んで共感した事、反論したい事などご意見をお寄せください。

『まちづくり出張所』となり、より地域密着型になった出張所を記念して、「ちとせ」の創刊号から第75号までをまとめた冊子を発行する事になりました。出張所はもとより区の公共施設や町会・自治会に配布する予定です。
ミニミニ紙同様、あわせてご覧下さい。詳しくは事務局へお問合せ下さい。



編集後記

忙しい現代社会、私はゆったり生活するように心掛けています。スローライフである。花の手入れ・野鳥への水と餌。一日一回は読書をする。図書館から借りた本など様々であるが時には読書中睡眠が襲い本がポトリ、電車では夢中になり一駅乗り過ぎて苦笑い、予定より多少遅れても慌てない慌てない、忙しいことを理由にしても一日に出来ることは限られているから・・・

《編集委員》

- 駒井・伊藤・鎌田・古我・斎藤・清水・下郷・関口・高橋・長・富井・松尾・萬賢

船橋葎根会前編集委員の吉田理佐夫さんが急逝されました。心から冥福をお祈りもうしあげます。